

I. 平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間;平成21年12月～平成27年3月(5年4月)

1. 概況

本市の中心市街地活性化基本計画は、平成21年12月7日に内閣総理大臣による認定を受け、旧基本計画における商業活性化、市街地の整備改善に関する事業に加え、まちなか居住の推進、都市福利施設の整備、公共交通機関の利便増進のための事業を盛り込むなど、中心市街地の活性化に向け総合的かつ一体的な取り組みを進めている。

最大の観光施設である姫路城が平成26年度末まで大天守保存修理工事を実施していることもあり、これまで外国人観光客を中心に順調に推移してきた登閣者数が70パーセント以上減少するなど歩行者通行量に減少が見られる。ただし、修理工事が終了する平成27年度以降は、旅行会社が企画するツアー等で相当数の観光客の増加が見込め、また、現在整備中の新駅ビルとその周辺施設との相乗効果により回遊性が高まり、中心部商店街の広い範囲に波及的な効果が期待できる。

空き店舗数については、民間の出店が活発化していることに加え、空き店舗対策事業の効果により順調に改善が進んでいる。今後よりいっそうの改善策を実施し、早期の目標達成に向けて取り組んでいく。

また、居住者数に関しては、基本計画区域内で民間による新築マンションの建設が進んでいることから見通しは非常に明るい。今後も駅南土地区画整理事業など都市基盤施設の整備改善を行い宅地の利用増進を図るとともに、交通環境の改善などの推進により街なか居住の魅力向上を図る。

なお、総事業55事業のうち、9事業が完了、ソフト事業など27事業が実施中、19事業(工事等着手中17事業含む)が未実施となっている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	見通し
人々が訪れ、集い、回遊するまち	歩行者・自転車通行量	74,635人 (H21)	85,800人 (H27)	65,121人 (H23)	①
人々が訪れ、集い、回遊するまち	空き店舗数	40店舗 (H20)	30店舗 (H26)	35店舗 (H23)	①
人々が暮らしたくなるまち	居住者数	8,341人 (H20)	8,656人 (H26)	8,615人 (H23)	①

- 注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
 ②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
 ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
 ⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

- ①「歩行者・自転車通行量」については、姫路城大天守保存修理工事により天守閣への登閣が不可能となった 21 年度以降は低調に推移しているが、工事が終了する 26 年度末には、その前年度末に完成する JR 姫路駅北駅前広場と併せて「まちの顔」を形成する大きな要素が整うことから観光客を中心とした来街者の増加が見込まれ、目標は達成される見通しである。
- ②「空き店舗数」については、空き店舗への出店が複数ある一方、新たな空き店舗が複数発生するなどの動きで推移し、結果として現状維持の状態が続いていたが、店舗賃借料と内装設備工事費の助成制度である「空き店舗対策事業」を推進したことなどにより改善が進んだものと思われる。今後も引き続き当該事業を中心に空き店舗解消に向けた取り組みを確実に実施するとともに、短・中期的なさらなる空き店舗対策を講じるための検討組織を立ち上げ、効果が期待できる方策の事業化を目指すなど、改善に向けた取り組みを強化することで目標は達成される見通しである。
- ③「居住者数」については、民間事業者によるマンション建設が順調に進捗しており、長く続いていた人口減少のトレンドから好転し、増加が見込まれつつある。この傾向は今後も継続するものと見込まれ、目標は達成される見通しである。

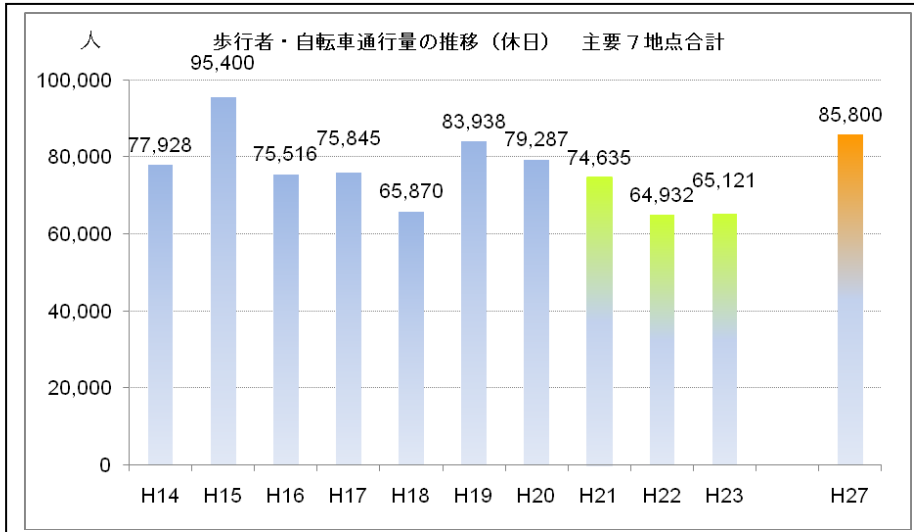
4. 今後の対策

- ・今後も引き続き、「人々が訪れ、集い、回遊するまち」、「人々が暮らしたくなるまち」の推進を図るため、基本計画に記載の 55 事業について、着実な実施に努めることを基本とし、民間事業者の取り組みに対し必要な支援をしながら数値目標の達成に努める。
- ・平成 25 年度末に JR 姫路駅北駅前広場の整備が完了、26 年度末には姫路城大天守保存修理工事が終了し、「駅」と「城」を核としたまちの魅力向上による「にぎわい」の創出と「活力」の増大が図られることから、中心市街地を取り巻く環境の変化を踏まえつつ、活性化のための総合的かつ一体的な事業を推進していく。
- ・中心市街地商店街の店舗分析事業を実施し、現状を把握するとともに、分析結果を商店街にフィードバックすることで商店街が目指すべき将来像をともに考え、その実現に向けた事業展開を図るための基礎資料として活用する。
- ・中心市街地の空き店舗改善に向け、短・中期的な対策として商店街関係者をはじめ、関係団体より広く意見を求めるための検討組織を立ち上げ、活性化に期待できる方策を検討し、事業化を目指す。

II. 目標毎のフォローアップ結果「人々が訪れ、集い、回遊するまち」

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P57～P69 参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H21	74,635 (基準年値)
H22	64,932
H23	65,121
H24	
H25	
H26	
H27	85,800 (目標値)

※調査方法；通行量調査（毎年4月29日調査）

※調査月；平成23年4月29日実施

※調査主体；姫路市

※調査対象；主要7地点(まちづくりステーション東、みずほ銀行西、BORBOSS前、カフェ・ド・クリエ西、FORUS西館東、西松屋前、POSH CLUB前)

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 新駅ビル整備事業（西日本旅客鉄道株）

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	本市の玄関口にふさわしい風格やシンボル性を備えた魅力ある施設として、駅前空間を構成する重要な建築物を整備する。
事業効果又は進捗状況	地下1階、地上6階、建築面積約4,500平方メートル、延べ床面積約3,100平方メートルの新駅ビルは、物販・飲食店舗なども設けられる予定で、周辺市からの新規需要を創出し、消費流出の抑制とともに都市部の集客力の強化が期待できる。平成23年12月に着工開始。

②. キャスティ21 エントランスゾーン整備事業（駅前広場整備事業）（姫路市）

事業完了時期	【未】平成26年3月
事業概要	駅北広場の拡張整備により、にぎわいある駅前空間を創出する。また、新駅ビルの地下階と地下街とを結ぶサンクンガーデンの整備、バス・タクシー・一般車乗降場の機能的な再配置、歩行者デッキの整備など、交通結節点機能の向上を図る。
事業効果又は進捗状況	駅前での新たなにぎわい空間の創出と、JR姫路駅、山陽電鉄姫路駅、大手前通り及び周辺街区等を結ぶ地下及びデッキレベルの新たなネットワーク形成により、街なかのにぎわい創出と回遊性の向上が期待できる。 平成23年度から姫路駅北駅前広場の整備に取り組んでおり、平成24

	年にはサンクンガーデン、眺望デッキ及び歩行者デッキの整備が本格化する。
③. 地下街改修事業（㈱姫路駅ビル）	
事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	姫路駅前地下街をより安全で利便性が高く魅力的な商業施設として整備する。
事業効果又は進捗状況	駅とまちなかを結ぶ駅前空間において、車と交錯せず安全・快適に楽しく歩くことができる歩行者動線として、街なかの回遊に誘う重要な役割を担っており、駅と街なかを結ぶまさに「要」として都心部の商業魅力を高めるとともに、歩行者の増加やにぎわい創出が期待できる。 平成 23 年 3 月よりリニューアル工事に着手し、25 年 3 月竣工を目指している。
④. 大手前通り利活用向上事業（姫路市）	
事業完了時期	【実施中】平成 28 年
事業概要	姫路駅から世界文化遺産・姫路城に至る本市のシンボルロードである大手前通りのにぎわい創出に向けた利活用向上に取り組む。
事業効果又は進捗状況	大手前通り整備による自動車交通流動変化を把握し、大手前通りの歩行者優先の道路空間に向けた整備方針の検討を目的に、H21～H22 に高質空間形成調査を実施した。今後、駅北広場整備に伴い、現況測量、基本設計を実施する。
⑤. 電博堂の運営（NPO法人姫路コンベンションサポート）	
事業完了時期	【実施中】平成 15 年度～
事業概要	御幸通り商店街内において、まちづくりに関する情報発信の拠点となる「情報口利きひろめ屋 電博堂」を運営する。
事業効果又は進捗状況	まちかど掲示板や地域情報を発信するイベントを通して、商店街の魅力向上や来街者の回遊促進が図られている。
⑥. 情報発信強化事業（商店街、民間）	
事業完了時期	【実施中】平成 16 年度～
事業概要	中心市街地全体のマップ、PR誌の発行、ポータルサイトの構築等の情報発信、宣伝活動の促進を行う。
事業効果又は進捗状況	西二階町商店街では、情報発信ボードを整備するとともに、ホームページを作成し、情報発信、宣伝活動が促進されている。今後、駅前商店街のアーケード改修に伴い整備する情報発信機能と併せて来街者の誘導と回遊性の向上が期待できる。
⑦. 「体験型イベント～まちなかあるき～」の実施（NPO法人、自治会等）	
事業完了時期	【実施中】平成 20 年度～
事業概要	本市の魅力を随所で体感できるよう市民がおもてなしの主役になって観光客を案内する。
事業効果又は進捗状況	姫路城をはじめとした多彩なスポットを結ぶ観光ルートでまちなかある

進捗状況	きを実施するとともに、各地区のガイドマップを作成し、観光客が歩きながら地域に根付いた歴史や伝統、文化などに触れることにより、中心市街地をはじめとした地域の新たな魅力を発信できている。
------	---

⑧. 自由通路整備事業（姫路市）

事業完了時期	【未】平成 24 年度
事業概要	JR山陽本線等の高架下空間に、中央コンコースとあわせて東西に JR 姫路駅の南北を結ぶ通路を整備する。
事業効果又は進捗状況	幅員が広く平面通行ができる自由通路を整備することにより、安全で快適な歩行者動線が確保でき、歩行者の利便性や回遊性の向上につながる。 <ul style="list-style-type: none"> ・H20.12 JR 姫路駅中央コンコース及び西側自由通路開通 ・H23.3 東側自由通路一部開通

⑩. 自転車利用環境整備（姫路市）

事業完了時期	【済】平成 24 年度
事業概要	JR 姫路駅南側の広幅員道路である駅南大路に、歩行者と自転車を分離するための区画線及び標識を設置する。また、姫路駅高架下に約 2,000 台収容の 2 階建て駐輪場を整備する。
事業効果又は進捗状況	中心市街地における自転車利用促進を図ることで、中心市街地へのアクセスを安全・容易となるなど、回遊性の向上が期待できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・駅南大路に歩行者と自転車を分離するための区画線と標識の設置 ・H23.3 姫路駅東口自転車駐輪場供用開始 収容台数 1,735 台 ・H24.4 姫路駅西自転車駐輪場供用開始 収容台数 1,036 台

⑪. バス 100 円運賃（ワンコイン運賃）制度（神姫バス株）

事業完了時期	【実施中】平成 13 年度～
事業概要	姫路駅を中心とする概ね 1km 圏内にあるバス停留所区間において、大人 170 円（一部 200 円）を 100 円（子供 50 円）とする運賃割引制度を引き続き実施する。
事業効果又は進捗状況	利用しやすいバス運賃とすることにより、バス輸送によるまちなかの回遊性の向上や公共交通機関の一層の利用促進が図られている。

⑫. 姫路城周辺観光ループレババス事業（神姫バス株）

事業完了時期	【実施中】平成 20 年度～
事業概要	姫路城を基点としたワンコイン運賃で姫路城周辺を巡るレトロ調ボンネットバス「姫路城周辺観光ループレババス」の運行、及び新型車両の導入と停留所の外国語対応を行う。
事業効果又は進捗状況	姫路城改修中は 3 割程度の利用者減少があるものの、観光客の手軽な交通手段として利用されている。また、車両はバリアフリー対応の新型車両を導入し、停留所は外国語対応とすることで利用促進を図っている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成23年の数値は、基準値の74,635人に対して65,121人と約13%減少している状況であり、22年からは微増しているものの、ほぼ同水準で推移している。

減少の要因としては、姫路城大天守保存修理、さらには東日本大震災による観光客の減少が大きな影響を及ぼしていると考えられる。一方、増加の要因としては、姫路城大天守修理見学施設「天空の白鷺」による集客対策、JR姫路駅高架下の商業施設プリエ「ごちそう館」、JR姫路駅北側の商業ビル「フェスタ南館」のオープンなどが考えられる。特に「天空の白鷺」については、デザイン関連の賞を受賞した話題性もあり、今後も姫路城修理期間中の集客対策として、いっそう期待できる。

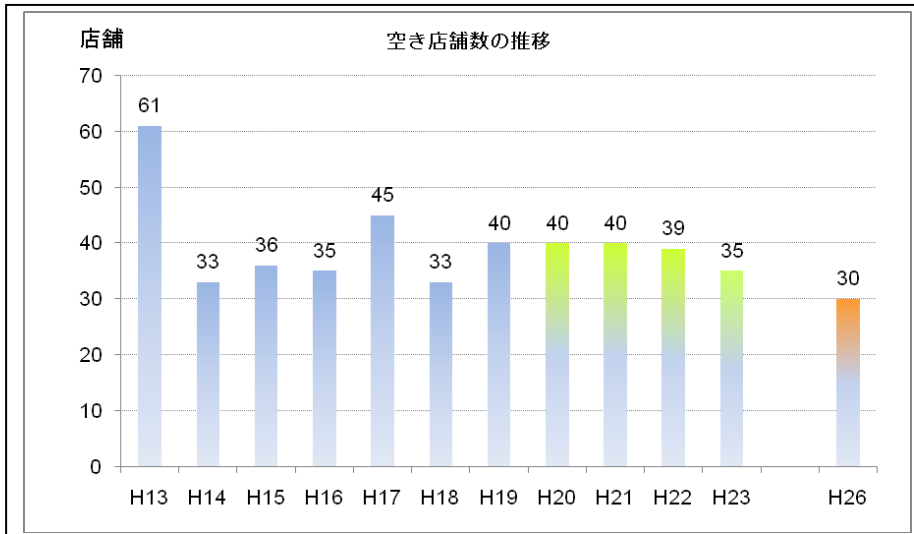
見通しとしては、平成25年度末にJR姫路駅北駅前広場の整備が完了し、26年度末には姫路城大天守保存修理事業が終了することで、観光客のみならず周辺市からの来街者の増加が見込まれるところである。

今後とも基本計画事業を積極的に推進していくとともに、商店街等と連携を図り、中心市街地の活性化に向けた具体的な事業を検討・実施していく。

II. 目標毎のフォローアップ結果「人々が訪れ、集い、回遊するまち」

「空き店舗数」※目標設定の考え方基本計画 P70～P73 参照

1. 調査結果の推移



年	店舗
H20	40 (基準年値)
H21	40
H22	39
H23	35
H24	
H25	
H26	30 (目標値)

※調査方法；現地調査（毎年3月下旬調査）

※調査月；平成24年3月実施

※調査主体；姫路市

※調査対象；中心市街地商店街の店舗1階部分

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西二階町コミュニティホール活用事業（西二階町商店街振興組合）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	西二階町商店街にある空き店舗を集客イベント等を行うコミュニティホールとして整備し、有効活用する。
事業効果又は進捗状況	西二階町商店街において新たな集客・交流施設として設置・運営され、駅と城を結ぶ都心軸である大手前通りから西側への回遊を促し、商店街のにぎわい創出に繋がっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮野菜市 月2回開催 ・七福寄席(落語会) 月1回開催 ・子育てほっとステーション(絵本図書館)の開設 など

②. がんばるまちなか商店街ソフト事業（姫路市）

事業完了時期	【実施中】平成21年度～
事業概要	中心市街地における商店街等が実施する新たなにぎわいづくりイベント等ソフト事業について助成する。
事業効果又は進捗状況	商店街等の新たな魅力づくりに向け、商店街等の創意工夫を凝らした新たな取り組みを支援することで、にぎわい創出や回遊性向上が図られている。特に平成23年度は、「B-1 グランプリ in 姫路」開催にあたり、同イベントと連携した集客力・回遊性向上のためのソフト事業に対して支援することで、本市のイメージアップや再街来に結びついたとの報告

を受けている。

③. 活力あるまちなか商店街づくり促進事業（姫路市）

事業完了時期	【実施中】平成 13 年度～
事業概要	商店街等が、商店街の活性化のために空き店舗等を活用して行う「テナント・ミックス事業」等に対して支援する。
事業効果又は進捗状況	商店街における空き店舗の活用を図り、店舗の連続性を確保するとともに、新たな魅力ある店舗等の出店を促進することで商店街の魅力向上や来街者の回遊促進が期待できる。利用実績が少ないため、PR を強化することで利用増を目指す。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

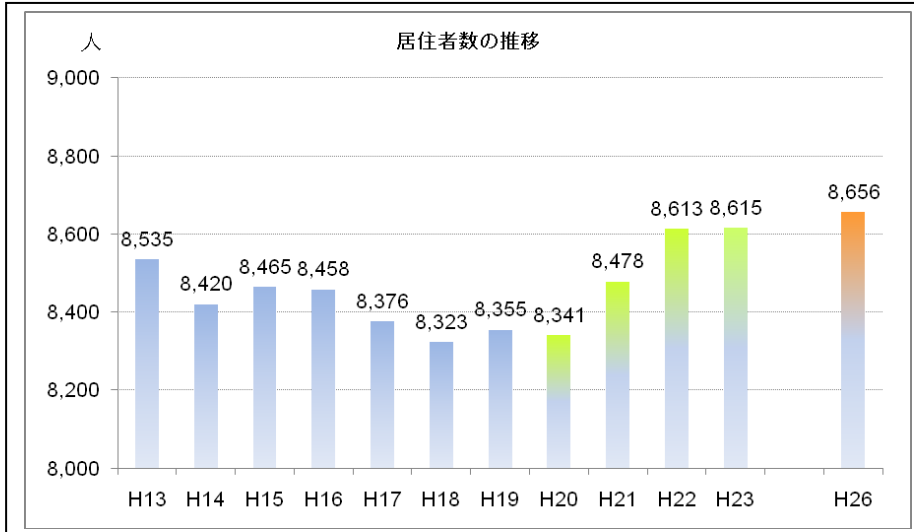
平成 23 年の数値は、基準値の 40 店舗に対して 5 店舗減少し、改善に向け順調に推移している。

ただし、数年間にわたり横ばい状態が続いていたため、この傾向が今後も継続するかは不透明なところである。そこで、空き店舗を利用した新たな施策の実現に向け検討組織を立ち上げ、商店街関係者をはじめ関係団体より広く意見を聞き、中心部商店街にとって効果的な方策を官民が連携して推進していく。

II. 目標毎のフォローアップ結果「人々が暮らしたくなるまち」

「居住者数」※目標設定の考え方基本計画 P74～P77 参照

1. 調査結果の推移



年	人
H20	8,341 (基準年値)
H21	8,478
H22	8,613
H23	8,615
H24	
H25	
H26	8,656 (目標値)

※調査方法；住民基本台帳登録人口より算出（毎年3月31日）

※調査月；平成24年3月31日付

※調査主体；姫路市

※調査対象；中心市街地内居住者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 優良建築物等整備事業（民間）

事業完了時期	【未】平成27年度
事業概要	市街地の環境の整備改善、良好な市街地住宅の供給等のために、防災上危険な木造住宅家屋の密集する市街地において、土地利用の共同化、高度化、防災性の向上等に寄与する優良建築物等の整備を促進し、建物更新を進めるための補助を行う。
事業効果又は進捗状況	世界的な金融不安、長引く景気低迷の中、国内経済の先行き不透明感による不動産開発をめぐる市場悪化の影響等から、当初予定の実施時期より遅れている。今後、小規模敷地の共同化や、複数の老朽建物の共同建替等を推進し、その中で良質な住宅ストックの供給の促進を図り、早期の事業化を目指す。

②. 駅南土地区画整理事業（姫路市）

事業完了時期	【実施中】平成26年度
事業概要	JR山陽本線等連続立体交差事業の進展により南北市街地の一体化が進む中、JR南側地区での都市基盤施設の整備を進めることにより、まちなか居住や新たな商業機能の立地を促進する。
事業効果又は進捗状況	平成19年度の土地区画整理事業の施行により、施行区域面積7.43ヘクタールの中で大型商業施設が平成22年度にオープンするなど、商業機能の立地が促進されている。また、宅地の利用増進による街なか

居住促進のため、区画道路の築造工事を行うとともに、仮換地指定に伴う支障物件の移転保障を行った。

③. 小中一貫教育推進モデル校の開設（姫路市）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	利便性の高い市中心部において、小中一貫教育推進モデル校を開設し、小中一貫教育ならではの教育の実践や、他校への提言・啓発を行い、来街者の増加や通学が便利なことによるまちなか居住の魅力向上につなげる。
事業効果又は進捗状況	小中一貫教育推進モデル校として平成 21 年度に開設し、全市域を対象に校区外からも児童を募集して平成 23 年度は平成 20 年度比で 1.7 倍以上児童数が増加している。今後も新たな教育環境を志向する区域外からの住み替え需要が見込まれる。

④. 城巽公民館整備事業（姫路市）

事業完了時期	【済】平成 21 年度
事業概要	旧城巽幼稚園を大規模改修してコミュニティ活動の拠点となる公民館として整備する。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年 4 月に開館し、「ふれあいと学習」「温かみのある公民館」を目指し、歴史講座などの地域講座をはじめ特色ある事業を地域住民一体となり実施することで、地域コミュニティの強化など居住環境の向上につながっているものと考えられる。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

平成 23 年の数値は、基準値の 8,341 人に対して 8,615 人と 274 人増加しており、目標の約 87%が達成されている状況である。一部の事業においては、事業の目処が立っておらず、予定通りの進捗が計られていないものもあるが、民間の共同住宅事業が進められており、居住人口は改善されていることから、目標達成に向けて概ね順調に進んでいると言える。

今後も引き続き計画に位置付けられた事業の確実な実施に向け、対策の検討を行い、状況に応じて事業の促進などの改善措置を講じ、都市機能集積の充実による居住魅力の向上に積極的に取り組むことで、まちなか居住者の増加を目指す。